



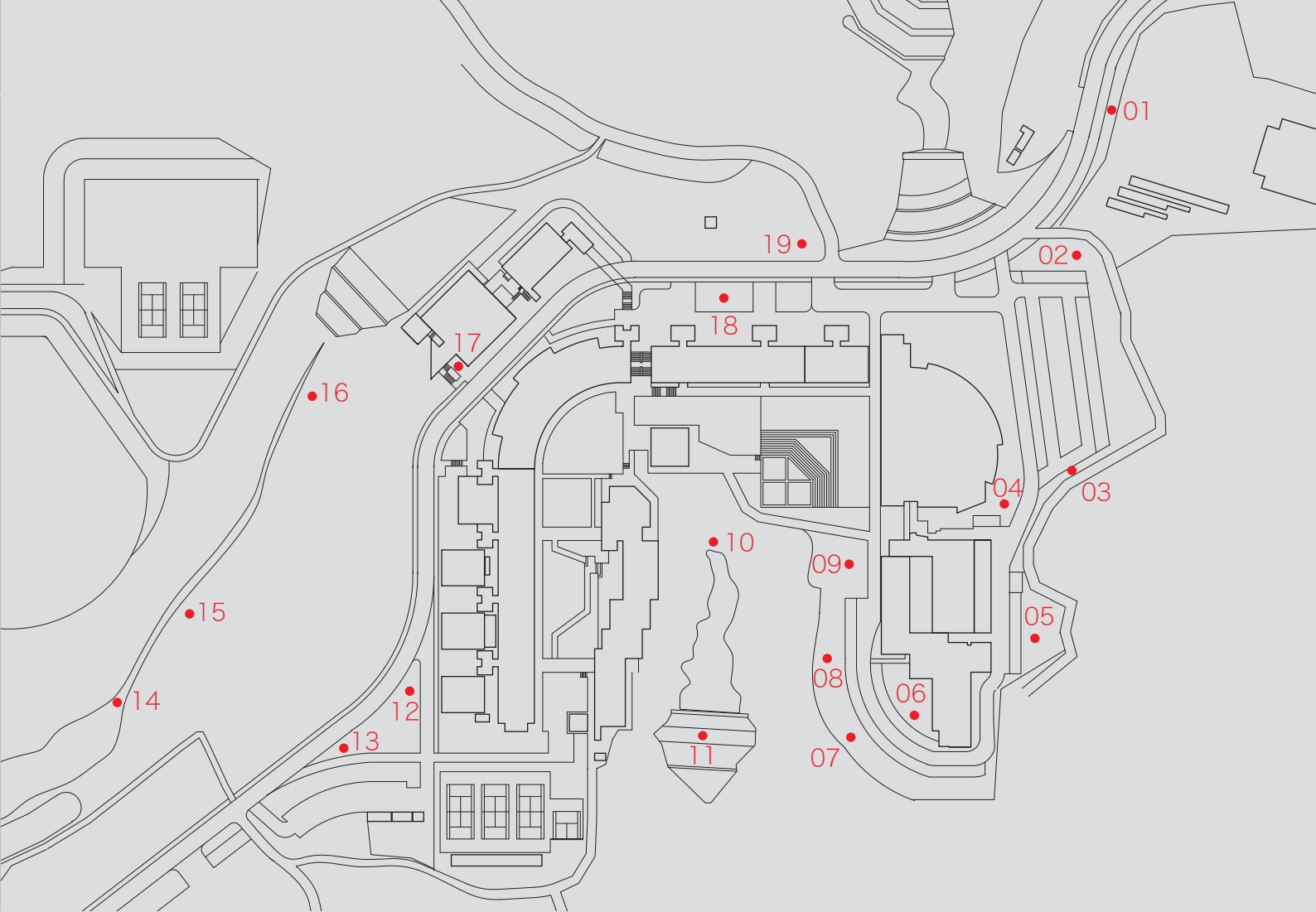
国際野外の表現展

International Openair Expressions 2024・2025

サイトスペシフィックアートと地域創造
Site Specific Art for Regional Creation

国際野外の表現展 2024・2025

International Openair Expressions 2024・2025
2023.11.26 - 2024.07.31 / 2024.12.01 - 2025.07.31



2024

東京電機大学鳩山キャンパス

02_ 澤田石貴子
05_ 衛守和佳子
06_ 児玉士洋
09_ 東京電機大学岩城研究室
11_ 沼田直英
12_ 根木山和子
13_ 赤松 功
14_ 岩城和哉
15_ 木村勝明
16_ 李 宣周 (イ・ソンジュ)
17_ 秋山秀馬

高澤記念館

20_ 岩城和哉
21_ 金田菜摘子
22_ 小野寺優元

SHUMA STUDIO

23_ 加茂孝子
24_ ソウマヒカリ

ギャラリー亜露麻

27_ 赤松 功

2024

TDU HATOYAMA Campus

02_SAWATAISHI Tacaco
05_EMORI Wakako
06_KODAMA Shiyo
09_TDU IWAKI Lab.
11_NUMATA Chokuei
12_NEGIYAMA Kazuko
13_AKAMATSU Isao
14_IWAKI Kazuya
15_KIMURA Katsuaki
16_LEE Sun-ju
17_AKIYAMA Shuma

TAKAZAWA House

20_IWAKI Kazuya
21_KANETA Natsuko
22_ONODERA Yuguen

SHUMA STUDIO

23_KAMO Takako
24_SOUMA Hikari

Gallery AROMA

27_AKAMATSU Isao

2025

東京電機大学鳩山キャンパス

01_ 赤松 功
03_ 赤松 功
04_ ウィルフリド・ゴンザレス
05_ グドルン・ウェストラルンド
07_ 李 宣周 (イ・ソンジュ)
08_ 渡辺一宏
10_ 秋山秀馬
11_ 沼田直英
12_ 根木山和子
14_ 岩城和哉
17_ 澤田石貴子
18_ 東京電機大学岩城研究室
19_ 児玉士洋

高澤記念館

20_ 岩城和哉
21_ 金田菜摘子
22_ 小野寺優元

SHUMA STUDIO

23_ 加茂孝子
24_ ソウマヒカリ
25_ ヘルガ・クルメカ
26_ 広瀬ゆか

ギャラリー亜露麻

28_ 根木山和子

2025

TDU HATOYAMA Campus

01_AKAMATSU Isao
03_AKAMATSU Isao
04_Wilfrido GONZALES
05_Gudrun WESTERLUND
07_LEE Sun-ju
08_WATANABE Kazuhiro
10_AKIYAMA Shuma
11_NUMATA Chokuei
12_NEGIYAMA Kazuko
14_IWAKI Kazuya
17_SAWATAISHI Tacaco
18_TDU IWAKI Lab.
19_KODAMA Shiyo

TAKAZAWA House

20_IWAKI Kazuya
21_KANETA Natsuko
22_ONODERA Yuguen

SHUMA STUDIO

23_KAMO Takako
24_SOUMA Hikari
25_Helga CMEKKA
26_HIROSE Yuka

Gallery AROMA

28_NEGIYAMA Kazuko



秋山秀馬
AKIYAMA Syuma
《Crack Circle》2024
私は河川敷で玉石を落として割る原始的な行為を行ってきた。私はその瞬間自然と同化した。



秋山秀馬
AKIYAMA Shuma
《北極星》2025
古代、または太古の時代から人は天体、北極星を方位、祈り、信仰等の生活の指針としてきた。



赤松功
AKAMATSU Isao

《痕跡一枝が伸びる》
2024
群がる生きものたちが喫煙コーナーを占拠。(上)

《痕跡一枝が伸びる》
2024
群がる生きものたち。わー帰れない！！
(左上)

《痕跡一枝が伸びる 生きものたちの昆虫合唱が始まる》
2025
巣箱のハチたちも参加、昆虫合唱です。
耳を澄まして聞いて下さい。(左中)

《痕跡一枝が伸びる トタン塀から枝が、、、、これも異常気象か。》
2025
トタン塀から枝が伸びてきました。異常気象がここにも。。(左下)





イソンジュ
LEE Sunjyu
《Memory of the festival・祭》
2024
日本に住んでいたとき、私の母は韓国に住んでいて、いつも私を思い浮かべた。母は縫物で何かを作り始めた。



岩城和哉
IWAKI Kazuya
《風のかたりべ》
2024



イ・ソンジュ
LEE Sunju
《Newdream 新しい夢》
2025
私の nic name は青い鳥です。
夢を持って空を飛びたい。年をとっても子供みたいに夢はいつも生きてます。



岩城和哉
IWAKI Kazuya
《触媒 Catalyst》
2025
場所を作品に見立て、その特性を増幅する触媒を布置する。



ウィルフリド・ゴンザレス
Wilfrido GONZALES
《指揮者のように》
2025
どのような指揮者を私たちは
望むべきなのか。私たちの夢
や才能はどうなるのだろうか。



児玉士洋
KODAMA Shiyo
《MEDITATION》
2024
地球は循環を維持し、バラン
スを取っています。



グドルン・ウェスタルンド
Gudrun WESTERLUND
《A Space for Celebrations》
2025
Three paths lead up to the
fragile shelter, where we
can celebrate arrivals and
departures.



児玉士洋
KODAMA Shiyo
《HANA》
2025
花の HANA の次世代に繋ぐも
の。人は自然との間に何を残
すのか…



澤田石貴子
SAWATAISHI Tacaco
《Count your blessings》
2024
誰かと誰か、何かと何かが、
関わっている



澤田石貴子
SAWATAISHI Tacaco
《Count your blessings》
2025
交点を恩寵として受け取る



沼田直英
NUMATA Chokuei
《Genius-Loci (ゲニウス - ロキ) 結合 (コンビナトリア combinatoria)ー存在の一義性) 2024

副題の結合は、一切の体系は構想の最初の具体化であり、分析と結合の一義性、運動変化を通じて展開の現実態を図りたい。

沼田直英
NUMATA Chokuei
《Genius-Loci (ゲニウス - ロキ)》存在の一義性「俯瞰ー生命の飛躍」2025
表現が表層へ浮上させる無底と多様性の関係の根拠を探る。



根木山和子
NEGIYAMA Kazuko

《風に聴く》

2024

かすかに聴こえる縄文からの物語。
小高い丘にたたずみ、歌声に耳を澄まし、
空を仰ぎ生きる樹々たち



根木山和子
NEGIYAMA Kazuko

《風に乗って》

2025

風に乗って、落ちてきた雲。
木々たちと仲良し。



根木山和子
NEGIYAMA Kazuko

《優しい光》

2025

同じスタイルで編んだものを
何枚か重ねてみました。



渡辺一宏
WATANABE Kazuhiro

《球・相》

2025

球体のヴァリエーションの一形態
として、有機的なフォルムを試み
てみた。



衛守和佳子

EMORI Wakako

《Moonlite Night〜つきのある夜〜》2023-24

風の流れる空間には時間を刻む月の形あり。月の魅力と神秘性を大地の土で創る。上から見ている私たちを笑う月たち。



新井海斗 岸ちひろ 柳澤貫太 鈴木健太郎 / 東京電機大学

ARAI Kaito, KISHI Chihiro, YANAGISAWA Kanta and SUZUKI Kentaro / TDU

《Uni-tento》2024

本作品は『直線が作る曲面』というコンセプトで、10 ユニットの同じ双曲面で構成される。包み込まれるような居心地のいい空間であると同時に、自然に対しては開放的という両立を目指した。

制作協力：小平和仙 中根克海 佐藤璃騎 國府田悠稀



菊地海渡 / 東京電機大学

KIKUCHI Kaito / TDU

《仮設空間 Tenporal》2025

簡単に分解と再構築が可能な多用途に応用できる仮設建築物

制作協力：鈴木真美 加藤晃弘 宮下央佑 渋谷遼知 宮田紗和 松下久瑠美 野口宇婷 田代拓夢

白石光音 大久保駿



ヘルガ・クメルカ

Helga CMALKA

《庭の絵／秋》

2025



広瀬ゆか

HIROSE Yuka

《土偶の囁き》

2025

ドナウ川の畔でふるさとを想い耳を澄ませていると、土偶の囁きが水に流れてやってくるかもしれない。

今から約 5000 年～ 4000 年前に最盛期を迎えた縄文時代中期の中心地のひとつであった山梨県。

そこから出土した土偶と水煙紋土器のデザインをもとに、友禅染の技法をつかって制作しました。



加茂孝子
KAMO Takako
《天空と地上をつなぐ者》
2024
和紙の衣装



ソウマヒカリ
SOUMA Hikari
《銀河563》
2024
私たちの場所からこの銀河までは 563光年の距離があり そしてこの銀河は徐々に拡大してゆきます。



加茂孝子
KAMO Takako
《和紙の衣装》
2025
心をつつむ、体をつつむ、和紙
の衣装。優しく、しなやかに、
力強く呼び起こせ、内なる体の
鼓動を！



ソウマヒカリ
SOUMA Hikari
《WAKUSEI》
2025
地球にちらばる様々な使われなくなった糸を束ねて
星の名前をつけました
月代わりで作品を入れ替えて展示いたします



金田菜摘子
KANETA Natsuko
《回遊2023》
2024
成長し、世界をめぐるいきもの達



小野寺優元
ONODERA Yuguen
《地下水脈》
2025
この地域で生きる人々の命は
荒川に守られている。



金田菜摘子
KANETA Natsuko
《回遊2024》
2025
新たな環境に向かい合ういきもの達



息信(シシン)
SHISHIN
《士兵！武器を取れ》
2024



木村勝明

KIMURA Katsuaki

《木と休む人》

2024

自然の中で休む人は幸いである。

大木に寄りかかる影のようなもの、実態は無いが、

その影のような存在が、旅人のようでもある。

永遠の癒しをそこに感じたい。

『場の固有性』

国際野外の表現展
オーガナイザー 小野寺優元

ある社会が発展途上にあるとき、その社会ではエネルギーが増大しつつあるので、外来の価値を積極的に取り入れ、新たな価値として生み出すことができます。しかし、その社会が衰退期に差しかかっているときは、その地域内の「場の固有性」を見極め、その地に密着した現実的な価値を顕在化するよう思考の転換をはかることが、その社会の持続性にとって重要なことになるでしょう。

このような衰退期にいつまでも外来の価値に拘泥していると、社会のエネルギーが減少するなか、現実的で有効な価値を生むことができません。また、発展途上期に地域固有の価値にこだわることは、保守的な姿勢を内在させることになり、社会の発展が輝きを失ってしまいます。

それぞれの地域社会および場には固有の物質が備わっており、その場で暮らす人々に必然的な影響を及ぼしていますが、そこで生まれ育った人にとっては、それらが日常であるため、価値として認識できにくいのです。さらに、その地域の風土は、人々の美意識の形成にも大きな役割を果たしています。もちろん後天的に受け入れられた個別の経験や教育が、思想や美意識に影響を及ぼしていくことは当然ですが、あまり実証主義的で経済優先の社会に生きる現代人は、自然を美しいと感じ、自然を神ともみなす日本人特有の美意識を忘れかけているように思われます。

「景観十年、風景百年、風土千年」という言葉があります。場の表層のあらわれである景観が、人々の暮らしの影響を与え、風景となってその地域固有の思想や美意識を創り出していくには、100年かかるということでしょう。渋谷区代々木の明治神宮の森は、100年前、全国各地から寄進された各種の献木が植えられ、今では鬱蒼とした美しい森となり、多様な価値が内蔵された風景となりました。この森に生きる木、草、虫、鳥が何代にもわたって命をつなぎ、この場所の固有性が、それらの遺伝子にも影響されるほどの長い時を経たとき、風景はその場に包含された人々の叡知として形成され風土とみなされるのです。

国際野外の表現展が開催される東京電機大学鳩山キャンパスは、埼玉県比企丘陵の一角にあり、なだらかな丘としなやかな谷が連なる地形で、その谷の上流には必ず小さな池があります。この池は、河川の治水がまだ進んでいなかった頃、台風による暴風や洪水の被害を免れ、安定的に田に水を供し米を収穫するために設けられた人工の溜池なのです。治水工事が進んだ現在、米は平野部の田んぼで作られています。中世の稲作はこの「谷地田」という谷合の田んぼが主流であり、発祥は古墳時代といわれ、千数百年の歴史があります。この溜池農法は日本農業遺産に認定され、現在世界農業遺産への登録を目指しています。この溜池のある里山風景は、この地域の自然を受け入れ、自然を畏れ、自然に委ねるという思想の原点になっています。

現代人にとって豊かな人生とは、安定した社会にあって、その地域固有の風景に基づいた美意識を心に抱き、自己実現に向けて人生を創造していくことなのかもしれません。縄文時代の「遮光器土偶」の大きな目を細めた奇妙な顔を見る時、縄文人は目に映るものだけで本質を判断してはならず、宇宙の真理は視覚ではたどりつけないものだということを知っていたかのように思われます。

(おのでらゆうげん)

国際野外の表現展2024・2025

協賛 ご支援とご協力 ありがとうございます

野沢悦男 山下茂 草野律子 小川修 医療法人瀬川病院 笠間益伸 津田薫 西畑美穂子 東條隆郎

横田哲身 平松朝彦 滝澤布沙 山岸隆 川合善明 小林正雄 合田宏之 箕輪高一郎 渡辺和恵

高松潤一郎 横溝高至 加島克美 岡田敏雄 (株)新穂石材 (敬称略)

助成 東京造形大学校友会

国際野外の表現展実行委員会 2024-2025

委員長 木村勝明

副委員長 市野学 土井幸平

事務局長 小野寺優元(オーガナイザー)

副事務局長 岩城和哉 寺島悦恩 草野律子 児玉士洋 三上紀子

会計 望月月玲

事務局委員 菱田祐一郎 李宣周 三木祥子 高島明子 滝澤布沙 金子清美 秋山秀馬 小野寺万起

事務局協力 大野馨 東京造形大学卒業生有志

実行委員 加島克美 野口政子 野口幸子 伊豆井秀一 江野幸一 加藤久恵 尹東植 矢口博之 柴山拓郎

笠間益伸 藤縄雅啓 小川修 市川紀文 馬橋和雄 矢部薫 塩野輝之 山田勲 新埜好一

横溝高至 山岸隆 渡辺和恵

会計監査 野口明

アートサポート募集

このイベントは皆様の支援によって運営されます。ご支援いただける方はお名前、ご住所、お電話番号をご連絡の上、下記口座に支援金をお振込みください(1口1万円)。後日カタログをお送りいたします。また小品展でのお買い上げの際に20%割引いたします。

三井住友銀行坂戸支店 (普)4171500

国際野外の表現展実行委員会事務局長 オノデラユウゲン

《国際野外の表現展2024・2025 サイトスペシフィックアートと地域創造》

発行 2025年12月31日 初版第1刷発行

発行編集人 小野寺優元

発行所 国際野外の表現展実行委員会

355-0051 埼玉県東松山市白山台15-19

TEL 0493-35-4506

e-mail mail@ioe-hiki.com

URL http://www.ioe.hiki.hiki/

編集 岩城和哉

350-0394 埼玉県比企郡鳩山町石坂

東京電機大学理工学部 建築・都市環境学系

copyright 2025 International Openair Expressions Executive Committee Printed in Japan